

抗精神病薬の再発予防効果における第一世代抗精神病薬と第二世代抗精神病薬の比較：システマティックレビューとメタ解析

Relapse prevention in schizophrenia: a systematic review and meta-analysis of second-generation antipsychotics versus first-generation antipsychotics

岸本泰士郎^{1,2,3}

1 慶應義塾大学精神神経科学教室

2 Hofstra North Shore-LIJ 医科大学

3 Zucker Hillside 病院

[Molecular Psychiatry 2013 年・18 巻・1 号・53-66 頁]

受賞に際して、ポール・ヤンセン賞選考委員の先生方、留学という素晴らしい機会を与えてくださった日本臨床精神神経薬理学会の会員の皆様、また共著者としてあるいはメンターとして論文の指導してくださった Drs. Agarwal, Kishi, Leucht, Kane, Correll に御礼申し上げます。本講演では、受賞論文の要旨を簡潔に発表する。

タイトル : Relapse prevention in schizophrenia: a systematic review and meta-analysis of second-generation antipsychotics versus first-generation antipsychotics

著者 : T Kishimoto, V Agarwal, T Kishi, S Leucht, JM Kane, CU Correll

第一世代抗精神病薬 (FGA) と第二世代抗精神病薬 (SGA) の再発予防効果を比較するためメタ解析をおこなった。組み入れ基準は FGA と SGA を直接比較した研究で 6 ヶ月以上患者を追跡したものとした。主要アウトカムは再発、副次アウトカムは 3、6、12 ヶ月時点の再発、入院、試験からの脱落などとした。23 試験 (患者合計 4,504 名) の解析の結果、個々の SGA は FGA と区別されなかったが、統合した SGA は FGA に比して有意に再発を予防した (29.0%対 37.5%, リスク比=0.80, 95%CI:0.70-0.91, p=.0007, I²=37%)。SGA は他の副次アウトカムにおいても FGA に勝り、その優位性は種々のセンシティブティ解析によっても確かめられた。効果の差はわずかではあるが (NNT=17)、再発に関連したアウトカムに一貫して SGA の優位性は示された。機序の解明や、臨床にこの結果をどう応用するかは今後の課題である。